

5月



2019年

みやま

第252号

病院理念

『患者さまの不安をとること』

当院の基本方針

「地域に根ざした安心できる医療」

「精神科医療の充実」

「老人医療」医療と福祉の結合

## 医療法人社団 光生会 平川病院

病院目標『時代が求める価値ある病院づくり』～ネットをつなごう医療の和～

〔ホームページ〕 <http://www.hirakawa.or.jp/> 〔e-mail〕 [hhsp1966@violin.ocn.ne.jp](mailto:hhsp1966@violin.ocn.ne.jp)



【左】副院長 河合 伸 ※就任挨拶は最終ページ 【右】資格取得者〔上〕金井看護師〔下〕北原看護師

## 河合伸先生が副院長として平成31年4月に就任されました

杏林大学の感染症科の教授をされ、長らく大学病院の院内感染をはじめ、東京都の新型インフルエンザやHIVの研究や対策に携わってこられた河合伸先生を副院長として迎えることができました。河合先生のご専門は、感染症、呼吸器疾患です。先生と平川病院との関係は父の時代からで、もう40年近くになりますし、当院の院内感染委員会でも指導的な立場で関わっていただけてきました。また、毎週月曜日の内科外来をお願いしてきていたので、顔なじみの患者さんも多いと思います。高齢の精神疾患患者さんの合併症の病態は複雑で容易ではありません。長い間、当院の患者さんを診察してこられた経験を高く評価し、当院での勤務をお願いしておりましたところ、漸く、今回、お引き受けいただきました。今後は、土井先生が訪問診療に、河合先生が近隣の高齢者施設を中心に内科病棟を盛り立ててくださると期待しています。どうかよろしくお祈りします

院長 平川 淳一

【表紙】院長挨拶【P2】新しい仲間・外国人技能実習生を受け入れます【P3】リハビリテーション科から【P4】地域生活支援室より【P5】外来およびデイケア患者数の変化【P6】こころの扉【P7】新入職者オリエンテーション【P8】就任のご挨拶（副院長 河合 伸）

## 新しい仲間・外国人技能実習生を受け入れます

昨年4月に外国人（中国）張さん・李さんの看護師2名と、（ベトナム）チャンさん介護職1名が入職しました。介護施設等では、既に何年か前にEPA制度として外国人スタッフの雇用が導入されていましたが、平川病院では初めてのことで実はとっても心配していました。でも、3人が入職してその心配は取り越し苦労だったと、成せばなるもの、今ではすっかり平川病院の一員となりました。そして今年、町田保育福祉専門学校で介護を2年間学んだベトナム介護職の2期生4名が法人の仲間となり、その内の2名が、内科・南3で新しいスタートを切りました。今後、5期生までの入職を予定しています。

昨今、テレビなど盛んに人材不足に関する報道がされています。日本はこれからも人口が減少し続けていくでしょう。一方では医療や介護が必要な高齢者は増加します。この少子高齢化・人口減少に様々な企業が対策を講じています。スーパーのレジも駅の改札も機械化し、労働力減少をカ

バーする仕組みになっています。またコンビニエンスストアは24時間営業の見直しを始めました。宅配業者はドローンを使った宅配も検討しているようです。AIの導入も活発になっています。しかし、病気や障害を持った患者さんや、今まで自分でできていたことを誰かの力を借りなければできなくなった高齢の方の辛さ・苦しみに対してケアを提供する看護や介護は、機械や人工知能で当然賄えるものではありません。人から人へと繋がるものであり、目には見えないことでも感じとる力と、相手への思いやりや優しさが欠かせません。超高齢化の日本だからこそ、看護・介護は他どの国より長けている、日本で介護を学びたいと言ってもらえる国へ。そして平川病院が、そんな学びたい外国人に選ばれる病院になれたらいいなと思っています。これからも私たちは仕事を共にする仲間として、温かく受け入れ支援する環境や体制を整備していきたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。



卒業しました！これから頑張ります！

看護部長 酒井 科衛子

## 土日の稼働が始まります

リハビリテーション科から

身体障害に対してのリハビリテーションは、「回復期リハ病棟」や「リハビリテーション病院」では365日、切れ間なく提供されています。概ね1名の患者様につき2-3時間のリハビリテーションを行われていることが多く、できるだけ早期に家庭・地域に帰っていただくための集中的に取り組む専門機関として機能しています。ところが、こういった病棟には「自宅復帰を〇〇%」「手術後から△△日以内」「リハビリテーションの効果を□■点以上」上げなければならない、という厳しい制限があり、精神疾患があるとそれらが達成できないことがある為、入院出来ない、ということが起こってしまっています。

当院では、全国的にも珍しく、精神科に入院しながら濃厚に身体的なリハビリテーションを提供できるように、理学療法士13名、作業療法士4名、言語聴覚士常勤1名、非常勤3名、助手3名が、精神科医、精神科看護師等の精神科専門職種と共に稼働しています。

そして、さらに充実化を図るため、今年度より土日祝日も少人数ながらスタッフが出勤し、患者様のリハビリテーションを実施させて頂くことになりました。この充実化により入院直後～早期の一番「伸び盛り」の時期に、濃厚なリハビリテーションを提供することができるため、より効果を期待することができるようになるのではないかと考えております。

「土日位休ませて!!」と思われる方もいらっしゃると思いますが、患者様毎の病状・時期により、集中的にリハビリテーションを行った方が良い時期もありますので、患者様と相談しながら、一生懸命取り組ませて頂きます。

リハビリテーション科 科長 上 蘭 紗映



# 精神科デイケアの皆様への 食事に関するアンケート

地域生活支援室より

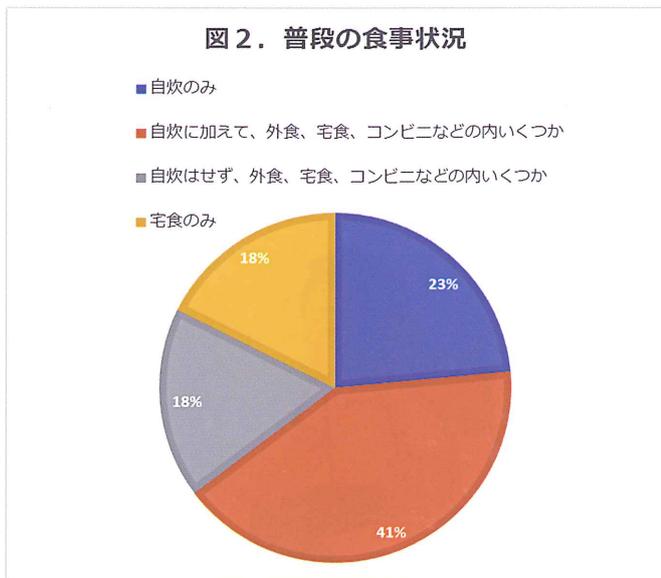
精神科デイケアでは、昨年12月より栄養科に協力していただき、月1回の料理教室を始めました。料理教室で作った料理を家でも試すのも良いと思いますし、疲れのある時には手間を省いた料理やコンビニ弁当、外食などでも良いと思います。上手に使い分け況に応じた食生活が送れるように支援をしていきたいと思っています。

そこで、今回精神科デイケアの利用者の内、26名皆様に食事に関するアンケートに協力していただきました。そのうち一人暮らしの方10名、GHに入所している方7名、合計17名の方に焦点を当てて結果を報告します。

まず、1カ月の食費(図1)は、1~2万円の方が35%(6名)と最も多く、2~3万円の方が29%(5名)と続きます。2017年度総務省の家計調査によると単身世帯の食費は、39,649円と約4万円近くかかっています。デイケアの方の場合、昼食をデイケアでとる方が多いため、条件に違いはあるものの、皆さんしっかり節約されていることがわかります。



普段の食事状況(図2)については、完全に自炊をしている人の割合は23%(4名)、自炊に加えて、外食、宅食、コンビニなどを利用している方の割合は41%(7名)です。また、自炊頻度は、毎日の方が8名、2~3日に1回の方が2名、4~5日に1回の方が1名、と日常的に自炊をしている方は多く、全く自炊をしない方と二極化の傾向にあるようです。

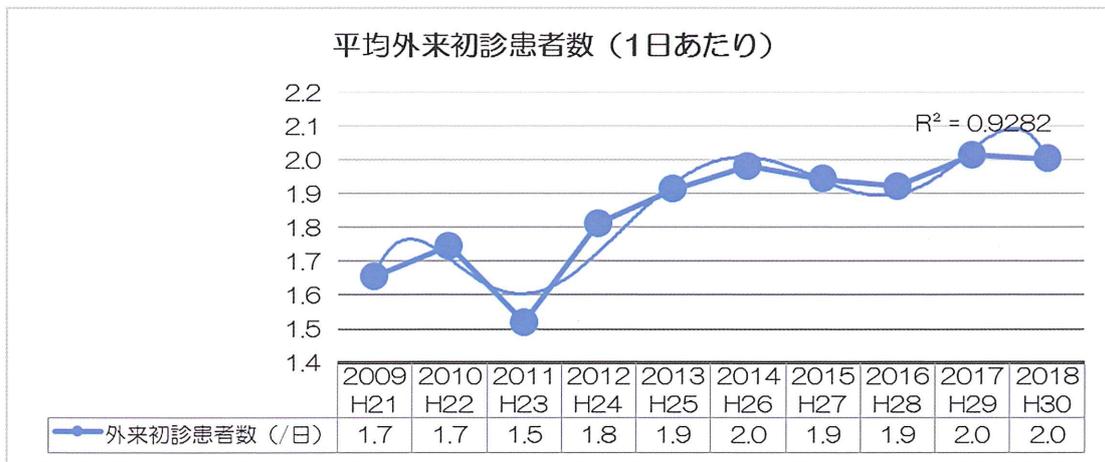
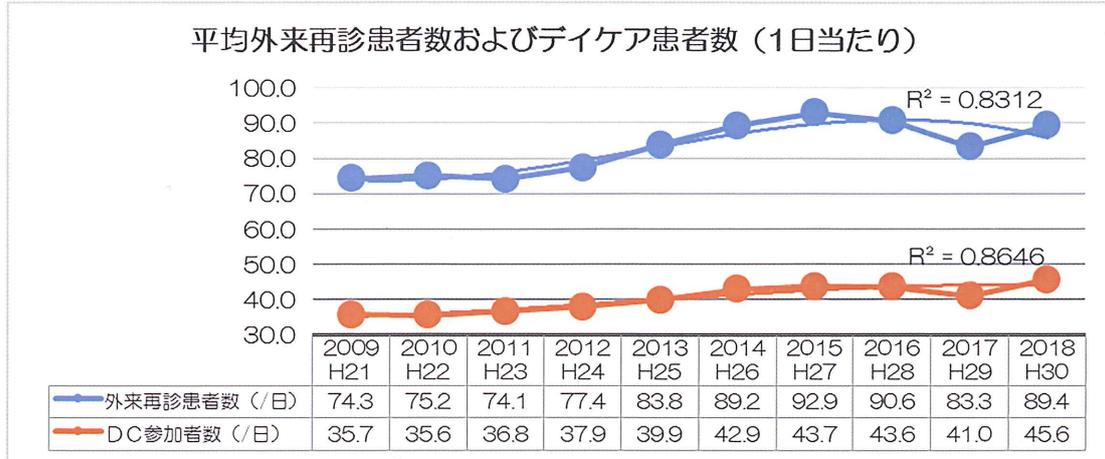


料理は、包丁などの道具を使用するスキル、複数の工程を並行して処理する能力など、多様な能力が必要で難易度の高い作業です。アンケート結果でも、「手間のかかることが嫌」「献立を決めるのが苦手・面倒」との意見が多く挙がっています。料理をすることで認知機能の向上や作業訓練にもつなげ、また得意な料理を一つでも作って友人にごちそうするなど楽しみや交流にもつなげていただければと思っています。

地域生活支援科 作業療法士 田倉 千春

# 外来およびデイケア患者数の変化

今月は直近10年間（2009年度～2018年度）の当院の外来患者数の変化を追ってみました。下の図がそれぞれ1日あたりの再診患者数とデイケア患者数、初診患者数の変化です。



当院の外来には、1日平均90名ほどの患者様が再診でいらっしゃいます。初診の患者様は1日あたり2名ほどとなっています。ここ数年、その傾向は大きく変化していません。当院の外来は医師をはじめとしたスタッフが患者様のお話を大切に聞くようにしています。発達障害や認知症に特化した外来を含め、初診の方には一段と丁寧であるご評価いただいています。そのため、限られた人数の患者様しか診ることができていない現状がここに表れています。我々のジレンマです。

デイケアでは堅調に人数が増加しており、2018年度は1日平均45.6名と過去最高でした。発達障害の方のためのプログラムが開始されたことなど新たな挑戦があったことも大きかったようです。

場所（デイケアは部屋の面積によって上限が決まっています）やスタッフ、時間が限られているなか、できるだけ多くの患者様の求めにお応えしようと努めていますが、今後新たな患者様をどのようにお迎えするか、それが我々の課題です。

医療の質向上促進委員会

## こころの扉 その198 ～仕事って面白くやりたいじゃない～

「あ～、不公平だ」そんな風を感じることはありますよね？ 心理学にアダムスという人が言った衡平理論というものがあります。それは、次の図のような分数の式で表されます。

$$\frac{\text{自分が得たもの (報酬や名声、経験等)}}{\text{自分が費やしたもの (努力や時間、熱意等)}} = \frac{\text{他の人が得たもの (報酬や名声、経験等)}}{\text{他の人が費やしたもの (努力や時間、熱意等)}}$$

イコール

人はこんな風に自分と他者が一緒にならないと不公平感を抱くという理論です。左側に対して右側が大きいと怒りが湧いてきますし、右側に対して左側が大きいと罪悪感を持ったり、過剰なプライドや自信を抱くことにつながったりするかもしれません。働いているとすごく納得できますよね。上の図のように等しくあって欲しいと願います。ですが、現実というのはなかなかそううまくはいきません。何故かと言うと、上の衡平理論はあくまでそう自分が感じられれば・・・というものだからです。衡平理論は分配の公正について述べたものですが、人は手続き的公正が得られた方が納得いきやすいとされています。それは、評価基準や方法が明確化かつ共有されていること、その決定のプロセスに参加できていることです。職業性ストレスとも大きく関係があるので、多くの組織では分配や手続きを含めた組織的公正の実現を目指しています。

では、面白く働くために個人でできることってないのでしょうか？ いやいや、無かろうはずがありません。最近、言われているのがジョブ・クラフティングという概念です。これは仕事を作っていくという言葉そのままです。自分の強み弱みを把握した上で、能力を伸ばすことに取り組み、自分の仕事の意義を大きな観点から捉え直して、少しずつ改善を図っていく。そして自分自身に実現可能なちょっとした挑戦を課すといった能動的行動様式です。こういった行動をとることが、仕事への価値を作り出し、より面白みをもって仕事に取り組んでいくことができるとされています。それができれば世話ないよという声が聞こえてきそうですし、正直私も同感ですが・・・でも、やらないよりやったほうがいいんですよ、こういうのは。この記事に興味をひかれたあなた、くさってないで何かちょっとした挑戦を試してみましようよ。ね！



REPORT

平成31年度 新入職者オリエンテーション

当院では、病院教育委員会が主体となり、様々な職員向け研修を実施しています。本年度も新しい仲間を迎え入れ、新入職者オリエンテーションを実施いたしました。



理事長による講義



院長による講義



看護部長による講義

全職種向けカリキュラム

1日目 4月1日(月)

番号	時間	研修内容
1	8:50~ 9:00	開会の辞・オリエンテーション
2	9:00~10:00	光生会のあゆみ
	10:00~10:05	休憩
3	10:05~11:05	平川病院の現状と新年度事業計画
	11:05~11:15	休憩 (※写真撮影)
4	11:15~11:45	病院組織での看護部の位置づけと役割
5	11:45~11:55	新入職に関する書類等の説明
6	11:55~12:10	職員のためのハンドブックについて
	12:10~13:00	昼休み
7	13:00~14:00	リスクマネージメント 医療安全
	14:00~14:05	休憩
8	14:05~15:05	一次救命処置(BLS)とAEDIについて
	15:05~15:15	休憩・懇親会準備
9	15:15~	懇親会
	16:45~	1日目終了



一次救命  
処置体験実技



医療安全に関する講義

2日目 4月2日(火)

10	8:50~ 9:00	オリエンテーション
11	9:00~ 9:35	認知症疾患医療センターについて
12	9:35~10:20	就業規則について
	10:20~10:25	休憩
13	10:25~12:15	行動制限
	12:15~13:05	昼休み
14	13:05~14:05	接遇
15	14:05~14:10	ハラスメントについて
	14:10~14:15	休憩
16	14:15~15:00	標準予防策、フェーズ管理について
	15:00~15:05	休憩
17	15:05~15:45	医療の質
18	15:45~16:45	精神保健福祉法・障害者総合支援法
	16:45~	2日目終了



感染予防に関する講義



懇親会の様子



精神保健福祉法に  
関する講義



拘束体験実技

3日目 4月3日(水)

19	9:15~ 9:20	オリエンテーション
20	9:20~10:10	院内見学
	10:10~10:15	休憩
21	10:15~10:30	院内教育システム
22	10:30~11:00	個人情報の保護
	11:00~11:05	休憩
23	11:05~12:35	ビデオ鑑賞『心の杖として鏡として』
	12:35~13:25	昼休み
24	13:25~14:35	包括的暴力防止プログラム
	14:35~14:45	休憩
25	14:45~16:35	まとめ(グループワーク)・アンケート記載
26	16:35~16:45	閉会の辞・オリエンテーション 看護部新入職者オリエンテーションについて
	16:45~	終了



包括的暴力防止  
プログラム



グループワークの様子

## 就任のご挨拶 副院長 河合 伸

杏林大学を今年の3月で退任となり、平川病院の常勤としてお世話になることになりました。杏林大学では、呼吸器内科医として20数年、感染症医として20年弱の長い間、診療、研究、教育に従事してまいりました。

この間時代は、昭和から平成へと大きく変化しました。高度成長期から平成のバブル景気、その後のバブルの崩壊、そして平成も終わり「令和」を迎えようとしております。このように世の中が目まぐるしく変化する中、医療の進歩はまさに日進月歩であり、次々に新たな知見が報告されました。特にこの20年は「昔の常識は、現在の非常識」といわれるくらいに変化しました。私自身も呼吸器内科専門医あるいは感染症専門医としての診療の傍らJICA医療派遣やHIV診療開設、Infection control team (ICT)の立ち上げと実践などを行い、この激しい変化に対応すべく努力してきたつもりです。

平川病院には、26歳のころから日勤、当直等でお世話になり、杏林大学と同様に平川病院の歴史とともに歩んできたように思っております。

この度、副院長の大任を拝命し、その重責に身の引き締まる思いでおります。とはいうものの通いなれた病院でありますので、これまで大学で得た経験を活かし、平川病院の発展のために頑張る所存でおります。常勤となれば、診療はもとよりそれ以外にもお教えいただく事がたくさんあると思いますのでご指導のほどよろしくお願いいたします。

元号が「令和」に決まりましたが、医療においては新しい技術や考え方がこれまで以上に生まれてくると思います。私たちは、医療の進歩を積極的に取り入れ、活かしていく必要があると思います。これから皆さんとともに頑張りたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

### 当院は南多摩医療圏の地域拠点型認知症疾患医療センターです

東京都では、平成24年に指定された「地域拠点型認知症疾患医療センター」12カ所（当院含む）と平成29年11月迄に指定されている「地域連携型認知症疾患医療センター」40カ所、合わせて52カ所の医療機関において、認知症の人とその家族が安心して暮らせる地域づくりを進めています。認知症に関するご質問がありましたら、各地域のセンターまでお問い合わせ下さい。尚、センター指定状況や役割の詳細等については、東京都公式ウェブサイト『とうきょう認知症ナビ』でご確認いただけます。

[とうきょう認知症ナビ](#)

### 編集後記

史上最長の10連休と言われたGWが終わりました。街中も渋滞することもなく、ショッピングセンターも特に混雑することもなく、全てが分散されたような感もあり、学生は金欠と宿題に悲鳴とか様々な声が感想が聞かれます。連休明けの一週間が辛かったという話もチラホラあり、10連休した方々が羨ましい限りです。楽しみは振休……。次は、夏休み目指して頑張りましょう。

医療法人社団光生会 平川病院

東京都八王子市美山町1076  
電話 042-651-3131  
FAX 042-651-3133

編集 平川病院 広報委員会

ご意見ご感想はこちらへお願いします  
kouhou@hhsp1966.jp

